

2017（平成 29）年度 神戸親和女子大学附属親和幼稚園学校評価について

神戸親和女子大学附属親和幼稚園は、2016（平成 28）年 4 月に開設されました。

学校法人慈愛学園様が育ててこられました教育の理念や方針を継承するとともに、さらなる幼稚園教育の充実を目指し、2 年間努力してまいりました。まだまだ歩行もおぼつかない園でございますが、大学との綿密な連携の基にお互いに連絡を取りながら専門的な視点から意見を聞き「学校評価報告」を作成し、神戸親和女子大学幼稚園運営委員会において承認されましたので公表いたします。

学校評価表の項目といたしまして、「子ども一人ひとりの自立に向けた力を伸ばす」「子育ての支援」「教員の資質向上に努める」「特色ある幼稚園づくりを目指す」「家庭地域との連携」「情報を発信する幼稚園」「幼稚園経営」を掲げています。

さらに「重点目標」とその内容の「取組の状況・成果・課題」を経年的に記述しました。それらを評価し、「改善策」と「幼稚園運営委員会」でいただいたご意見を表記しています。

幼稚園教育要領が改訂になり、職員間での研修や神戸親和女子大学教員からのレクチャーも受け、今までの保育・教育を見直し、取捨選択しながら園児の興味関心を高める環境を整えてまいりました。環境による知的好奇心を育む自然との関わりや人権を大切にすることを共通理解とし保育内容を考えてまいりました。

その時その時の子どもの要求にあった支援をすることで、それぞれの子どもが充実してできているかを考えるとみんな同じ支援ではないことを理解し、環境を整える試みを行いました。小動物の飼育や植物の世話は従来通りですが、各教室に観察用ルーペや重さと量の確認のためのキッチンスケールなどを設置し、子どもが自ら興味を持って取り組めるようにいたしました。

個々の子どもの人権を守るため保育を再考し、隠れたカリキュラムに注目いたしました。呼称を小学校以降と同様に「～さん」を使い、単に色で分けることや男の子と女の子を異なった扱いをしないことにも取り組みました。

毎年、神戸親和女子大学では「国際教育フォーラム」が開催されており、その際、海外からのフォーラム参加者の方々が来園され、さまざまな知見からご意見をいただいています。また、IALS 国際附属校園協会に加盟しておりますので、世界的に通用する幼児教育実践の場となるよう努めてまいります。

一人ひとりの命が輝くように子どもたちを大切に育て、保護者・地域・大学関係者等と共に連携しながら精進してまいりますので、今後とも神戸親和女子大学附属親和幼稚園に皆様のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2018 年 3 月 31 日

神戸親和女子大学附属親和幼稚園
園長 勝木洋子

平成29年度 学校評価報告書

神戸親和女子大学附属親和幼稚園
園長 勝木 洋子

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	幼稚園運営委員会でいただいた意見等
子ども一人一人の自立に向けた力を伸ばす	基本的習慣の確立	<p>食事、排泄、衣服の着脱、手洗いうがい等については、一人一人の様子を見ながら、引き続き声をかけた。さらに家庭と連携を深め、修了するまでには、幼稚園の準備を自分でしたり、自分で身の回りのことを進んでしたりする子どもに育てたいといった思いも参観や幼稚園便り等機会を見つけて伝えてきた。</p> <p>基本的生活習慣の重要性について、修了するまでには、進んで挨拶をする。登降園の際には、自分の持ち物は自分で持ったり、身に付けたりすることを保護者にも周知していく。</p>	A	<p>昨年検討された「親子で取り組もう」(約束表)の取組は導入できていない。年齢による発育発達段階が異なるので、年齢ごとのゴールをおくのがより理解されやすいので、細やかにお便りなどを通して伝えていきたい。今までコップ・タオルをロッカーに置いていたが、子ども自らが手洗いうがいを意識できるように、新たにコップ・タオルを掛ける備品を設置した。</p>	<p>基本的生活習慣の自立は、幼児の生活の自立につながる重要な指導事項である。一人一人が確実に身に付けていくために、個人の記録を細かく取ったりどのような保育者の援助が必要かを職員で共通理解したりすることも必要と思われる。約束表の取り組みは、一斉に全学年に導入するのではなく、5歳児、夏季休暇中等、限定して導入することも、ひとつの方法ではないか。</p>
	命を育む体験・環境体験の充実	<p>植物の栽培や身近な飼育動物、小虫との触れ合いを通して、命の廻りや、命の大切さに気付くことができた。今年度は、三田市より人権の花(サルビア、風船蔓など)の提供を受け、植栽に関わり日々の水やりにも励んだ。ウサギ小屋・小鳥舎の撤去に伴いケージ飼育となったが、移動できることから子どもたちにはより身近な存在となっている。</p> <p>近隣のゆりのき台公園に出掛け、季節ごとに身近な自然を感じる機会を見逃さないように心掛けた。</p>	A	<p>今後も命を育む体験を積み重ねていけるよう、いろいろな場面で命について考える場を大切にしたい。小動物の命について全園児と話し合ったり、野菜や季節の花等に水やりをしたり、収穫をしたりするなど、5歳児を中心に保育に取り入れるようにした。ゆりのき台公園の環境をさらに活かし、自然の美しさ、不思議さなどに会い、豊かな感性を高めるとともに体験の充実に努めていきたい。</p>	<p>小動物とのふれあいを通して、その温かみや住んでいる環境を実際に見たり触れたりする経験を積み重ねていくことが大切だと考えられる。</p> <p>ゆりのき台公園まで「あるけあるけ運動」など定期的に幼児の励みになるような取り組みがあってもいいのではないかとと思う。</p> <p>幼稚園周辺の自然環境や、園内における植物の栽培・身近な飼育動物等とのふれあいを通して、子どもたち一人一人が自らの関心や体験をもとに、豊かな感性をはぐくんでいることについて、大いに評価できる。</p>
	幼児の主体性を伸ばす保育の実践	<p>子どもが自分で考え、自分で行動できるように、日々の保育や行事等について見直しをした。運動会や、造形展、生活発表会では、子どもの興味や関心、環境の構成等について職員間で話し合いを重ねた。また指導や記録を書くことを継続することを中心に、様々な行事や日々の保育を通して、子どもの主体性が充分に発揮されるよう職員の共通理解が図れるように研修に取り組んだ。</p>	A	<p>今後は、日々の保育の中でもアクティブ・ラーニングの三つの視点「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を踏まえた、学びの過程を意識して、保育に取り組んでいきたい。教師の指導案や記録をもとに、職員間のディスカッションを活性化するために情報機器を取り入れた。</p>	<p>アクティブ・ラーニングは、今、学校教育の現場で求められている教育方法である。どのような環境の構成や援助が、幼児の「主体的・対話的で深い学び」につながっていくか、事例を通して考えてみる必要がある。</p> <p>行事の見直しや精査が必要ではないか。</p>

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	幼稚園運営委員会でいただいた意見等
子ども一人一人の自立に向けた力を伸ばす	人権意識の向上	子どもが、相手の立場に立って考えたり、正しく善悪の判断をしたりする場を大切に。また、約束やルールを守ることができるように、遊びや生活の中で、道徳性や規範意識の芽生えを培ってきた。呼称はすべて「さん」で呼ぶように心がけた。	A	職員自身が常に高い人権意識をもって日々の保育にあたり、保護者とともに取り組んでいけるように努めたい。単に色や男女で区別することがないよう、LGBTの人権にも配慮し、生活発表会の場でも話し合った。特に呼称は気をつけている。	保護者に望ましい人権感覚を啓発する意味からも、教職員がモデルになることを大切である。 人権尊重の意識を醸成するにあたり、幼児期において「さん」と呼称を統一することは重要な意味がある。教育活動全般において、「隠されたカリキュラム」が存在していないかの点検が必要である。
	配慮を要する園児への充実	配慮を要する子どもには、全教師で支援の方法を話し合い、共通理解を持って対応した。また、神戸親和女子大学教授の大島教員（臨床心理士）から支援方法等の指導を受けたり、関係機関との連携を図った。かるがも園の指導員の園内訪問や担任との協議もおこなった。	B	一人一人に適切なかわりをしていくためにも、医師や専門機関、大学との連携を充分にとるよう心掛けたい。 バリアフリーに関しては大きな課題がある。	配慮を要する子どもへの対応については、今後キンダーカウンセラー等の専門家の助言を得るケース会議を定例化し、そのことが職員の脂質向上につながるように体系化されたい。
子育ての支援	地域の子育て支援のセンター的役割	「預かり保育」（月曜日～金曜日18時まで）、様々な年齢の子どもたちと楽しい時間を過ごしている。「わくわく幼稚園」は、幼稚園や保育所に通っていない小学校入学前の子どもを対象に開催し、無理なく集団生活に慣れるように配慮している。「なかよしクラブ」は、未就園児の子ども保護者を対象に開催し、地域の子どもの遊び場や保護者の交流の場になっている。	A	今後も安全面に配慮し、それぞれのプログラムを充実させる必要がある。また、その都度、子育て相談に応じていきたい。参加者は月を追うごとに増加している。施設面で開催場所の課題もある。	開催場所の具体的な課題をもう少し明らかにしていく必要がある。現在行っている「子育て相談」を充実する支援が必要である。子育て支援としての役割を果たすことは大切だと思うが、幼稚園本来の保育に支障をきたさない程度でいいかと思う。
教員の資質向上に努める	幼稚園と大学との連携	職員研修としての実技面では、音楽表現、絵画や木工などの造形表現、リズムジャンプの指導を実施している。 講義では、4月：「教育課程」12月：「はたらくことの意味」「リズムジャンプ」2月：「子どもの心を輝かせる音と歌」「親和幼稚園のカリキュラム」の講義を通して、専門性を高めている。	A	日誌、指導案の開示をし、教員間で共通の課題として取り組んでいる。今後は、課題に向けて、研究するとともに、積極的に公開保育を積み重ね、学び合える組織を目指していけるよう努力したい。大学研究者との共同研究をし、附属園としての価値を高める必要がある。	保育の専門性の向上を目指し、継続的な研究体制を構築していくことが大切である。 学びあえる組織を目指すためにも、公開保育を実施し、互いの保育実践のよいところを学びあうことが重要である。外部講師が多彩であるが、教師個々の指導力は上がっているか検証が必要である。 幼稚園と大学の連携は、他の園にはない強みと考える。今後は大学における幼児教育と幼児教育と幼稚園での実践とがつながっていくことが大切であると考え。
	海外の方達との触れ合う体験	ネイティブの教員から週2回程度、英会話や音楽、手遊び等を実施し、異文化体験に取り組んでいる。 また、大学の海外協定校の訪問時に様々な海外の方とあいさつやさまざまな活動をとおして異文化体験をすることで心のつながりを実感した。	A	開園にあたって、米国やカナダの附属幼稚園、小学校をもつ大学で組織される「国際附属校園協会」に加盟している。今後、子どもの自主性を重んじる世界基準の幼児教育の情報を共有し、世界を視野に入れた教育について、教師が学ぶことが重要である。	世界基準の幼児教育とは何を指すのか。 「国際附属校園協会」とは、どのような活動をしているのか、現場の先生にどのような影響をもたらしているのか。 海外にルーツを持つ保護者の子供が複数在園している中で、広く海外に目を向けその保護者からの協力を得ることができるのではないかと。

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	幼稚園運営委員会でいただいた意見等
特色ある幼稚園づくりを目指す	合奏や合唱などの音楽表現	サマーコンサートや生活発表会等で歌を歌ったり、合奏したり、大学との連携を通して、音楽に親しめる環境を工夫した。	B	音楽の専門家の指導を受けることで、子どもたちは、歌ったり合奏したりすることが楽しくなってきた。また、子ども自身が楽しく、夢中になって体を動かしているリズムジャンプは、体力向上につながっている。子どもたちの姿を踏まえて、今後、幼稚園の特色を具体的に教育課程に位置付けていくことが課題である。 これらの表現活動を兵庫県女子体育連盟60回記念フェスティバルに参加し、5歳児が表現活動を披露することができた。	今後さらに大学と連携し、2年間積み重ねてきた特色を発信していくとともに、教育課程に位置づけていく。その際、教員一人一人が教育の質の向上を図るという意識を持つことが大切である。 保育するのは担任である。このことを明確にしておかないと担任教師は力がつかない(保育のレベルアップ)のではないかと。 音楽表現・リズムジャンプ・英語については、大学のもつ人的・物的資源を強みに活かして、園で継続して取り組んでいただきたい。
	リズムジャンプ	運動会では年長組が体でリズムを感じ、様々なジャンプにチャレンジをして、友達と笑顔いっぱい踊った。年中組は年長組の姿を見て挑戦しようとする姿が見られる。			
	英語で遊ぼう	Gabby & Tim Kamino 先生の多様な英語への興味づけで、子どもたちは簡単なあいさつなど臆せずやっている。生活や遊びの中で学んでいくには回数も少ないがコミュニケーションを取りたいという意欲は感じられる。			
家庭地域との連携	子どもの生活や発達の連続性を踏まえた教育の推進	1学期は、1回の学級懇談会と2回の個人懇談会がある。特に1学期は、行事を通して、園児の様子を保護者に見ていただく機会を多くもっているが一つ一つの行事の見直しを進行中である。 ゆりのき台小学校とは、1年生5年生との交流や児童音楽会への参観等、近隣の中学校とは、トライやる・ウィーク、高校とは、「子ども未来類型」「家庭科の子育ての授業」等を通して、交流を図っている。	A	1学期は、行事との日にちも接近しているので、2回の個人懇談会を1回にする。また、様々な家庭事情を配慮し、母の日、父の日の参観をファミリーの日と改めて保育内容を充実させる。 今後も、近隣の小、中学校、高校との連携を深めるため、幼稚園側からも積極的にアプローチし、交流の場を増やしていけるように努力する。	日常的な保育を公開しているため、個別の懇談会は一回で適当と思う。「ファミリーの日」でなく「保育公開日」でいいのではないかと。 5歳児3学期に「小学校給食参観日」などもいいのではないかと、可能なら試食もさせてもらう。 子どもの家庭背景を考えると「ファミリーの日」は、大事な改善点である。他校種との連携も有意義であると考えられる。園内における異年齢交流が発展していくような体系化がわかるとありがたい。
情報を発信する幼稚園	情報の積極的な発信の充実	「しんわだより」を通して、その月の保育のねらいを保護者に伝えた。また、門の掲示も、保護者や一般の方々も見やすくなるよう工夫した。 また、ホームページを通して幼稚園生活の様子を知らせた。 子どもの日常を写真に取り、それを職員室前にコメントをつけて張り出した。生き生きした表情や陶芸などに取り組む真剣な表情に保護者からの評価がたかかった。	A	今後は、ホームページの更新を頻繁にしていくよう努めたい。次年度は、保護者アンケートを実施し、改善できるもの、検討が必要なものから一つずつ見直していくよう努めたい。 貼りだした写真はドキュメンテーションとして積み重ねていきたい。 門の外の掲示板の活用を図っている。	保護者や地域の方々に情報を発信する工夫が見られる。発信した情報の反応をどう受信するかも一考を要する。 保護者アンケートは時期や目的等を考えていく必要がある。 「しんわだより」の趣旨を見直すとともに、読んで楽しく、子どもたちの学びや成長が伝わる「クラス便り」の検討をしてはどうだろうか。

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	幼稚園運営委員会でいただいた意見等
幼稚園運営	安全管理・危機管理の徹底	<p>園庭全体が見渡せるように、防犯カメラの映像を3面から4面に増やした。年間10回の避難訓練（火災、不審者、地震）を行い、様々な状況を想定した避難方法を園児に指導した。</p> <p>三田消防署に依頼し、火災訓練の実施。また、三田警察署より、不審者対応について教師が訓練を受ける機会もあった。</p> <p>複合遊具等の点検の結果、新しい遊具の設置工事を3月末よりすることとなった。</p> <p>ミサイル発射時の訓練も県からの通達通りに実施したが、泣き出す子どももいて、不安無く訓練する必要を感じた。</p>	B	<p>何よりも子どもの命を守るためには、今後も様々な状況を想定した避難訓練を実施したり、関係機関と連携をとり、実施訓練をしたりすることは重要である。</p> <p>次年度の4月より、保護者は送迎時に保護者証を身に付けるので、防犯対策の一環であることを意識付けていきたい。</p> <p>3月末より門の付近に警備員の配置をし、安全管理を向上させている。</p> <p>発災時の危機管理マニュアル（乳幼児用品の備蓄も含めて）を作成すべきではないか。</p>	<p>子どもが危険を回避するためには、状況に応じて機敏に体を動かすことが必要である。日々の保育の中で、意識して取り組んでいただきたい。</p> <p>さまざまなアレルギー症状を持つ子どもが増えてきている。アレルギー対応の研修会に積極的に参加し練習用のエピペンを体験するなど、教職員全員が正しい知識と対応を学んでおく必要がある。</p> <p>危機管理マニュアルの作成が重要な課題かと思う。インシデント・レポート（起こった事故例、事故になりそうな事例等）を収集して、事故予防に備えることが大切である。</p> <p>安全管理・危機管理に関して、様々な観点から尽力されていて、大いに評価できると考える。</p>